

明石市資源循環推進部会（第1回）議事概要

- | | | |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 日 時 | 2023年（令和5年）7月26日（水）13時00分～15時10分 |
| 2 | 会 場 | 明石市役所議会棟2F大会議室 |
| 3 | 出席者 | 委 員：8名
傍 聴 者：2名
事 務 局：8名 |

1. 開会

2. 部会長挨拶

（部会長）

みなさま、暑い中お集りいただきましてありがとうございます。

異常気象や洪水の被害が毎年のように発生しています。

昨日佐渡での調査から帰ってきたばかりですが、ものすごい暑さでした。佐渡でいった視察先が昨年の大雪で荒れ放題といますか、大変な被害状況でした。その被害状況をここまで何とかしようとしておりますが、これまでの知恵が全く通用しないといったそんな時代がきているのではないかと思いました。

それからごみや廃棄物でいいますと、先日ニュースで、北海道大学の先生が、北海道の人が全然いかないようなところの雪までとって調べたところ、全ての雪にマイクロプラスチックが含まれていたそうです。これは空気中にもかなりプラスチックが含まれていて、雪の中に入り込んでいるといった状況を示します。

2050年には海洋生物より海中のプラスチックが多くなるといわれていますが。陸でもこのような事態になっているのだと、恐ろしくなりました。このような暑さも私たちの行動の結果かもしれないと思います。

3. 議事

【第1号】明石市の現状について…資料1

明石市の現状について、事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

（部会長）

ごみ処理量の変化について、事業系の増加は回復してきたと理解できるが、家庭系ごみが減っている要因はどうか。

⇒（事務局）

家庭系ごみの減少については、ひとつの可能性としてコロナ禍にあり片付けごみが令和

2年、3年度と増加し、令和4年度にそれが落ち着いたことが一つの要因として考えられる。しかし、詳しくは分析できておらず、今後の動向をみながら、状況を把握していきたい。

(部会長)

資源化可能物の混入が減少傾向にあるというのは非常に喜ばしいことだが、今後技術的に資源化可能物の分類が変わっていく可能性はあるのか。

⇒ (事務局)

今のところ、資源化可能物の分類は変わっていないが、今後、技術の進歩により分類が変わる可能性はある。

(委員)

地域での集団回収について、以前はPTAやこども会が中心となり、資源化可能物の回収を行っていたが、今ではなくなってしまった地域も多く、自治会がその活動を引き継いでいる場合もあるが、高齢化もあり先細りになっているように思う。

以前と現状を比べて、集団回収での回収率はどのようになっているのか教えてほしい。

⇒ (事務局)

質問のとおり、集団回収は団体数、回収量ともに、減少傾向にある。明石市では、それを補う形で月に1回ステーションで紙類・布類の行政回収を実施しているが、紙類・布類が燃やせるごみに混在しており、再資源化については、今後更なる対策の検討をしていきたいと考えている。

(委員)

地域の高齢者は、1ヵ月に1度の回収では重くなった紙類等をなかなかステーションまで持っていけない。そういった細やかな配慮までできれば、リサイクル率にもいい影響がでるように思う。

【第2号】明石市一般廃棄物処理基本計画の変更について…資料2

明石市一般廃棄物処理基本計画の変更について、事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

(部会長)

新ごみ処理施設の稼働にあわせた計画とあるが、新ごみ処理施設について教えてほしい。

⇒ (事務局)

今の焼却炉は1日に480tの焼却が可能。今の新ごみ処理施設の計画においては、303tの焼却が可能な施設の建設を予定している。

⇒ (事務局)

補足ではあるが、プラスチックを分別することを想定してこの規模を考えており、分別しないとすると、施設規模の見直しが必要となる。

(委員)

プラスチックを分別し、再資源化するとは具体的にどのような資源に変わるのか。

新ごみ処理施設について、今の性能をそのままに規模を小さくするのか、規模は小さいけれど、高ガス炉のように一気に燃やすことができるような高い性能の焼却炉とするのか。またそれは、高砂にある施設と同じものとなるのか。

⇒ (事務局)

プラスチックの再資源化については、もう一度燃料として変わる形である。また、プラからプラへというようなりサイクルの拡大も今後期待できる。

⇒ (事務局)

新ごみ処理施設の質問について、燃焼効率の話かと思うが、一気に燃やすと毎回の立ち上げに燃料を使い、燃料効率が悪くなる。明石市として採用を考えるのは、明石市から可燃ごみを平準化させて燃やし続ける効率のいい焼却炉を検討している。

高砂の施設と同じ回転式のストーカ炉とするかどうかまでは、言及していないが、低空気炉や、廃ガスの再循環等の技術は同様に取り入れていく予定。

(委員)

以前は明石市でもかなり細かな分類をしていた時期があったと記憶しているが、環境をあまり考えず、便利さや生活の楽さをとり、今のごみの出し方になってしまった。明石市民として反省するべきことだと感じている。今回の機会をきっかけに、今後ごみを分別していきたいと感じている。

(副部長)

再資源化に過剰に費用がかかるのであれば意味がない。再資源化とは合理的なコストの範囲で可能なものなのか。

⇒ (事務局)

プラスチックの再資源化にはコストはかかるが、合理的なコストの範囲内で可能であると考えている。

【第3号】ごみ減量施策の推進について…資料3

ごみ減量施策の推進について、事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

(部会長)

家庭系ごみの指定袋の導入について、神戸市等の近隣自治体が導入している場合、明石市へごみが持ち込まれる可能性も考えられる。

(委員)

指定ごみ袋のある自治体に引っ越したことのある自身の経験から、指定ごみ袋の導入は導入直後に不服に思ったとしても、数か月後には自分の意識が劇的にかわる。またスーパー等の事業者も購買補助のため、ごみがでないように工夫をはじめるといい相乗効果がうま

れる。負担が増えるといった声もあるとは思いますが、トータル評価としては、いい方向に行くと考えている。

(部会長)

指定ごみ袋の導入は処理費用の負担ではない。税金を使って処理をしており、多く出しても、少ししか出さなくても同じと考えれば、出すごみの量に応じた負担をするほうが公平といった考え方もある。指定袋と処理費用を上乗せした有料の袋との違いは、しっかりと説明が大切と考える。

(委員)

指定ごみ袋の導入に躊躇はない。指定ごみ袋を導入している他市で勤務していたが、各家庭がごみの量を意識して購入しているようだった。

自身の経験では、分別をすることで、買うときにごみの捨て方を考えていくようになる。

(委員)

過去にも明石市では家庭系、事業系ともに指定ごみ袋の導入を検討していたと記憶しており、今回が2回目のトライかと思う。市長が交代したことも一つの機会ととらえ、積極的かつ早急にすすめてほしい。

(部会長)

明石市の市民の方の意識は熟成しているように感じる。他市事例の情報収集など悠長なことをいっている場合ではないように感じる。なにか新しいことをする時は100%すべての人が賛成するようなことは絶対はないと思うが、明石市のために施策をすすめていってほしい。

(委員)

プラスチック分別を行うとなった場合は、プラスチック用の袋をつくるのか。

⇒ (事務局)

まだ指定袋については、どれを指定袋にするのかといったところの議論には至っていない。新ごみ処理施設を建てるにあたって、20%のごみ減量を想定しており、指定ごみ袋の導入は非常に有効だとは認識している。今後指定ごみ袋を導入するとなれば、部会での意見を伺いながら決めていきたい。

(委員)

「燃やすしかないごみ」といったキャッチーな名前をつけている自治体もでてきている。明石市では検討していないのか。

⇒ (事務局)

名称変更のニュースは聞いているが、分別については難しい問題が多く、資源ごみでいえば、それはごみになるのかといった意見もあり。今後プラ分別をはじめの際に、改めて名称についても、協議していきたい。

(委員)

分別に関しての率直な意見になるが、分別項目が多く、朝の忙しい時に手間をとってしまふような細かな分別はやめてほしいと切にお願いしたい。

分別については賛成だが、理解しがたいような分別にはならないようにしたい。

(委員)

高砂市でもようやく指定袋の導入がすすんでいる。どんどんすすんでいる自治体におくれないう明石市でも導入を検討してほしい。とくにプラはかさばるので、分別の目的があるのであれば速やかにすすめていくべきである。

先程の協議事項に戻ってしまい申し訳ないが、基本計画の変更について『検討を進める』といった文言では、後ろ向きに感じる。せめて『検討する』と言い切る等、強い表現に変えてほしい。

(部会長)

「明石市一般廃棄物処理基本計画」の変更は何度もできないと思う。今回の変更については『進める』ではなく『検討する』へ修正をお願いしたい。

⇒ (事務局)

変更案については、再度修正を検討する。

(部会長)

リチウムイオン電池やカセットコンロのボンベについて、爆発物になるため分別の必要性をもっと啓発するべきではないか。とくに電子タバコにもリチウムイオン電池が入っていることを最近知り驚いた。

⇒ (事務局)

電子タバコにも含まれるリチウムイオン電池にはリサイクルマークが付いており、大型の家電量販店等で回収する制度、仕組みができあがっている。

(委員)

各地域から選ばれているごみの推進減量協力員について、名簿もだして地域で任命しているからには、実際に働く人としてもっと有効に活用できるような制度にするべき。現状は名簿を提出し、研修を行うだけになっているように思う。小学校区ごとに研修を行う等、ごみに対して勉強する機会を増やしていくべきと考える。

(委員)

減量推進委員については、時代の変化もあり、なかなか個別指導が行えない現状がある。そこで、行政からごみ処理費用やごみ量についての啓発をもっと行い、市民の意識を変えていくような活動をお願いすべきである。

(部会長)

他市の事例にはなるが、子ども推進員の制度を作っている自治体があり、とてもいいと思った。子どもがごみに対して考えるきっかけになるし、大人は子どもにいわれると聞く傾向にある。

他に事業者の搬入手数料について、明石市はすごく安いと聞いたがどうなのか。

⇒（事務局）

明石市は10キロ60円で、近隣の自治体は120円程度のところが多いので、約半額が現状。処理手数料だけで賄えているわけではない為、応益負担の原則からも外れており、今後搬入手数料の改定は考えていくべき課題である。

【第4号】今後のスケジュールについて…資料4

今後のスケジュールについて、事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

（委員）

市民の方へお願いするだけでなく、明石市も事業者として何かごみ減量に向けた取組をすべきであるとする。

⇒（事務局）

明石市も事業者として何が出来るかを考え、取り組んでいきたい。

4. 副部長挨拶

（副部長）

今回色々なお話を伺って基本的な方向性は同じ方向を向いている。ごみ減量については活動促進といった方向性で一致しており、具体的な案もでてきた。これを積極的に進めていっていただけたらと思います。

5. 閉会

以上